

2025 トヨタジュニアゴルフワールドカップ第3日

6月26日（木）：中京ゴルフ倶楽部石野コース（愛知県豊田市）

日本男子は、フランスとアメリカに6打差を付けて首位の座をキープ。兄・長崎煌心が、この日の最少スコア66、弟・長崎大星は今大会2度目の67をマーク。3日間合計で25アンダー、トータル401は、現行方式の大会フォーマットに変更して以来のベストスコアを更新した。個人戦でもトップに立つ長崎大星は「優勝するために、いいプレーをしようという気持ちは変わりません」。あくまで自然体で2年ぶりの優勝を目指す。

一方、初日首位のフランスは2日連続で順位を落とし、アメリカは第3日に134をマークし、リーダーボードの順位を上げた。「1日目の結果（6位）は、ちょっとショックだった」とブルックス・シモンズ。「僕たちはもっといいチームだと思っていたし、この4日間で、それを証明したい」。上昇ムードに乗って日本を捕らえることができるか。

女子は日本が初日からのトップを堅持。個人戦首位の新地真美夏は71と伸ばすことができなかったが、長澤愛羅と岩永杏奈がともに69をマークし粘りを見せた。3人は1か月前に宮崎県のトム・ワトソンGCで開催されたクイーンシリキットカップアジア太平洋ゴルフチーム選手権にも出場。韓国、タイに次ぐ3位に終わった。「あの結果で、ここでタイトルを獲得するんだというモチベーションが高まりました」と岩永。1日も首位を譲らず完全優勝でリベンジを果たすつもりだ。

昨年準優勝のタイはクリチャンヤ・カオパッタナスクルが今週2度目の5アンダーパー67をマークしたのを皮切りに、プリム・プラクナコーンが69で続き、日本との差を1打まで縮めることに成功。個人戦でも首位・新地に3打差と迫ったカオパッタナスクルは「ベストを尽くすつもりだけど、もう少しパットが良くなしないと」まだまだ自身のプレーに満足する様子はない。最終日に悲願の優勝を狙う。

荒天の影響で、3時間20分の中断があり、各選手に少なからず影響があった第3日。最終日は晴天予報で今度は暑さとの戦いが待っている。31回目のジュニアの祭典を制するのはどの国か。未来のスター候補たちの競演は、いよいよクライマックスを迎える。